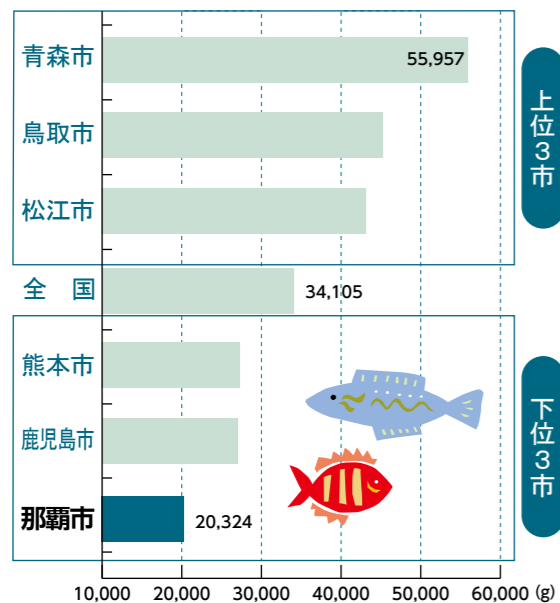


【生鮮魚介類の世帯あたり年間消費量】

(2009年～2011年)



20,324g

総務省の家計調査によると、沖縄県における生鮮魚介類の消費量は、全国で最も少ないようだ。上位には東北地方や日本海側の地域が入り、肉料理で有名な鹿児島や熊本は順位が低かった。

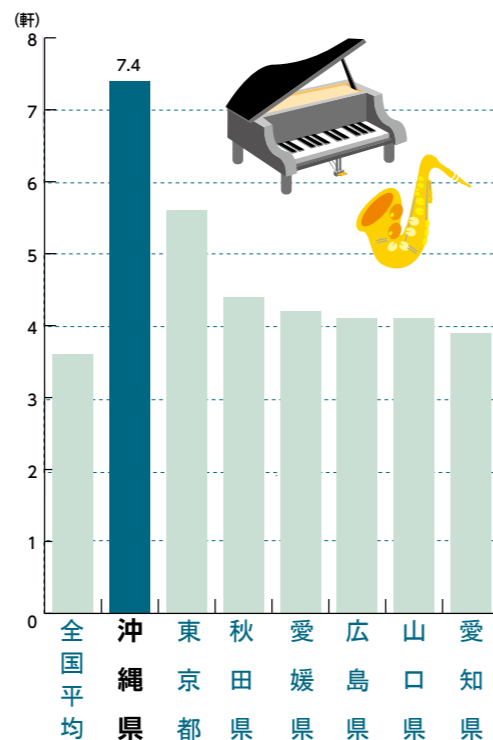
観光客への調査では、「沖縄といえば海というイメージなのに、魚料理が食べられる所が少ない」との回答をよくみかける。時折、「沖縄には美味しい魚がない」という声を聞くが、実際、スーパーの鮮魚売り場に並ぶ魚種は少ない。

新鮮な魚介類は美味しいだけでなく、私たちの健康になくてはならない食材。漁業関係者や流通関係者には、より多くの魅力的な魚介類の供給を求めたい。一方、私たち消費者にも、様々な魚種や美味しい食べ方を知る努力が必要だろう。

地元産の美味しい魚介類を食べて、地産地消、健康、観光の一石三鳥を実現しようではないか。
(海邦総研/鮫島智行)

【楽器小売業事業所数】

(2009年・10万人当たり)



7.4軒

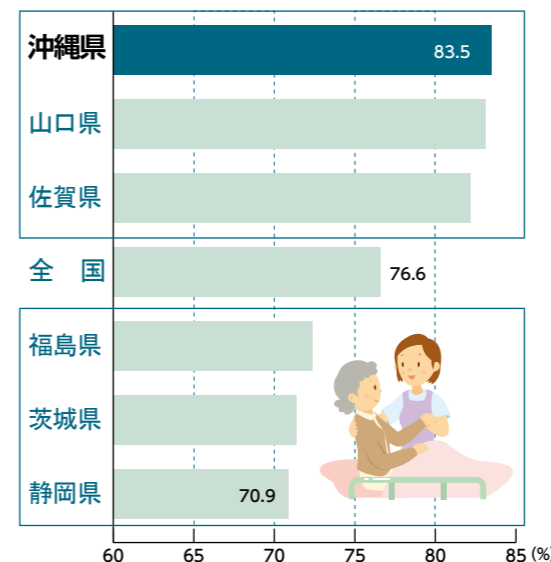
沖縄の音楽というと沖縄民謡を連想される方が多いかもしれない。しかし民謡以外にも最近では沖縄ポップス、ひと昔前では沖縄ロックも、沖縄の音楽として全国で人気を博した分野だ。このように昔から音楽が盛んであるためか、沖縄には楽器小売店が多いようだ。

2009年の経済センサス基礎調査によると、沖縄県にある楽器小売業の事業所数は102軒。人口10万人あたりに換算すると7.4軒で、全国1位の水準となっている。音楽が生活に溶け込んでいるという証なのかもしれない。

販売されている楽器には三線、ギター、ドラムなどこれまで一般的だったものに加え、最近ではラテン音楽やアフリカ音楽の打楽器も人気があるようだ。これらの打楽器のように特別な技術がなくても演奏できる楽器も多くあるので、楽器店に足を運んで、お気に入りを見つけよう。
(海邦総研/瀬川孫秀)

【一般病床利用率】

(2010年)



83.5%

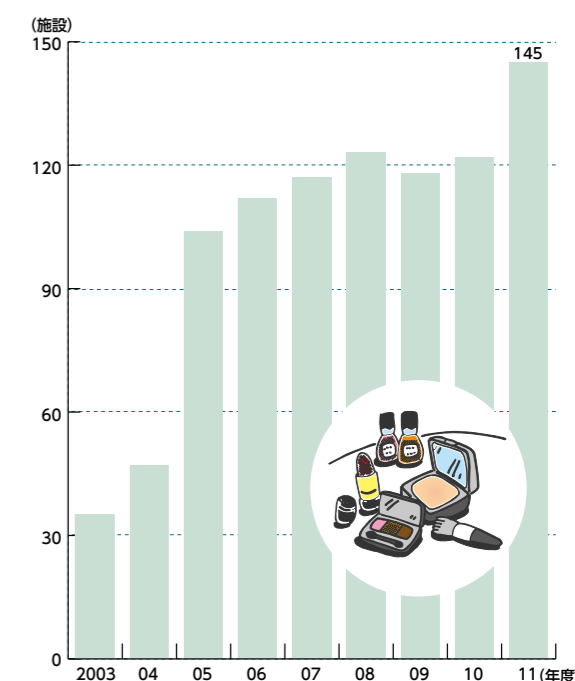
新年度に入り、健康診断や人間ドックを受診した人もいよう。都道府県別の平均寿命で、長きにわたり首位の座を守ってきた沖縄県女性の平均寿命が3位に陥落したというニュースは記憶に新しい。沖縄の健康長寿のイメージに黄信号が灯ったともいえる状況だ。現状としても県民の入院患者数が多いのが懸念材料だ。

厚生労働省「病院報告」によると、一般病床利用率は83.5%で、全国で最も高い。県内の人口当たり病床数はほぼ全国平均であることから、入院している人の数としても多いといえそう。一方、通院者率は全国最低で、通院が少なく入院が多い現状が見て取れる。

北海道夕張市では、予防医療に注力した結果、ターゲットの疾患の死亡率と医療費が低下したという。まずは健康診断や人間ドックの確実な受診と、医師の助言を踏まえた病気予防に取り組もう。
(海邦総研/堀家盛司)

【化粧品製造業・製造販売業の施設数】

(2011年度)



145件

ハイビスカス、アセロラ、月桃、モズク、クチャや海洋深層水など、沖縄の天然素材を使用した化粧品は多い。ここ数年でかなり増えたと感じる方も多いのではないだろうか。

厚生労働省「2013年衛生行政報告例」によると、沖縄県の化粧品製造業・製造販売業の営業許可・届出施設数は、2011年度で過去最高の145件となっている。施設数は全国10位で全体の約2%を占めている。03年度の35件と比べると4倍も増えているのだ。

沖縄では素材の特性を活かして、スキンケアなどの基礎化粧品の開発が盛んなようだ。種類豊富な天然素材があることと、ハンドメイド商品など小規模でも開発や生産が可能な業態であることも急激な増加の要因だろうか。

全国と比べて製造業の割合が小さい沖縄だけに、今後もますます期待がかかる分野だろう。
(海邦総研/新里治史)